

1 地すべりの概要

綿田地区は豊後大野市朝地町の中心地から北西3.2kmの山間地に位置し、地形は北から南に傾斜する緩斜面で、中央に過去の地すべりによって移動したものと推定される標高400m程度の分離小子丘(離れ山)が存在する。小子丘を境に北側は圃場整備の水田、南側は未整備の水田、小山の部分には民家2戸が存在する。

西側には平井川が流れており、砂防指定地に指定され砂防堰堤及び流路工が整備されている。

南側の水田部は昭和39年6月の梅雨前線による集中豪雨により平井川左岸沿いに幅約80m、長さ約140mの地すべりが発生し、地すべり防止区域に指定されている。

平成29年5月12, 13日の2日間の連続雨量103.0mmが引き金となって、5月16日に民家の敷地内に亀裂が発生し、周辺の農地、市道にも多数の亀裂が確認された。

現地調査の結果、地すべりブロックは既指定区域を含めて幅約250m、長さ約400mで、その後も降雨に関係なく活発に活動し、被害が拡大した。



位置図